

第6回加西市未来の学校構想検討委員会

日時 : 令和4年6月27日(月)
14時00分~16時49分
場所 : 加西市市民会館3F小ホール

1. 開会

2. 報告事項

(1) 加西市未来の学校構想検討に係る先進地視察について

本日はお忙しい中、委員の皆様にはお集まりいただきありがとうございます。本日は、全9回予定されております委員会の6回目となります。次回以降、答申の起こしを作成していく予定になっております。それに向けて本日は、小中それぞれの改革をめぐる重要な論点について、大きな方針を決めることができると考えております。委員の皆様には、自由闊達な議論と円滑な議事運営へのご協力をお願いいたします。

報告事項が2つあります。最初に、加西市未来の学校構想検討に係る先進地視察について、事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局(学校教育課)

令和4年6月20日、月曜日、加西市未来の学校検討委員会委員の皆様10名、教育委員4名、教育委員会事務局7名、合計21名で三重県松阪市立鎌田中学校に視察に行きました。視察先では、当初予定している時間を大幅に超える熱心な質疑をいただきました。

日程調整が急であったため、当日ご参加いただけなかった委員の皆様には、大変申し訳ありませんでした。机上に視察資料を封筒に入れておりますので、ご確認ください。

視察先の選定理由について、1つ目にコミュニティ・スクールを導入しているという点でありました。鎌田中学校は、再編や統廃合といった状況を踏まえた校舎の改築ではありませんでしたが、これまでの本検討委員会の議論を踏まえ、地域の皆さんの意見を未来の学校構想にどう反映していくか、中学生の意見も聞いてやりたいという声もいただいております。

今後、未来の学校構想は段階を追って具体的に描いていく過程で、学校運営協議会を設置したコミュニティ・スクールの効果について、大変学ぶ点がございました。

2つ目に鎌田中学校は社会教育施設である地域交流センターを併設していたという点です。検討委員会の議論の中で、地域との関連ですとか特別支援教育、その他、児童生徒の課題にきめ細かく対応できるような学校の必要性についてご提言をいただいております。そこで、従来の学校のみ機能をもった施設、設備ではなく、鎌田中学校では地域交流センター、これは加西市では公民館の機能を有していると考えればよいのですが、そういう特徴を持っておりました。今後、加西市は新中学校などでどのような機能を有する学校をめざすべきであるか、その

一つのモデルを見せていただきました。

3つ目は、校舎の機能、デザインに魅力があるという点です。生徒が通いたい、保護者や地域住民が通わせたいと思えるような学校デザインや機能に魅力を持たせておられました。

至るところに地元産の木材を使用し、オープンな図書スペースで読書や調べ学習ができ、地域交流センターには地元の方々と日常的に交流できるスペースがありました。

中学生の意見も反映させてありました。部活動のことが気になっている生徒が多く、とりわけランニングスペースを望む意見が大きく、それを実現した設備となっていました。

4つ目は、学校規模が400名でありまして、これは北条中学校とか、今、素案として申し上げております新中学校、仮にはではありませんが、それと同規模であるという点。以上4つを選定の理由としました。

これまで、小学校の学園構想に関連する先進地はないか、オンライン遠隔授業を日常的に行っている市町はないか、視察先を数々当たってまいりました。加西市が構想しようというものに、なかなかヒットしなかったのが現状でした。これはある意味、加西市が市の実情に合わせた独自の構想を描こうとしていることであると考えております。その中で、検討委員会での検討や議論を踏まえまして、中学校の構想を基にした視察として設定させていただいた次第です。

表内の「視察による学び」にも記載しておりますが、鎌田中学校は改築前には生徒指導面で課題のある学校でありましたが、地域住民との交流が日常的になって、生徒が落ち着いた生活を送るようになってきていると校長先生からのお話がありました。また、オープンスクールも、これまで僅かな人数しか参加いただけなかったそうですが、校舎改築後、授業参観を希望する保護者等が200人を超えるようになったと聞いております。そういった姿こそが、加西市がめざすべき姿の一つであろうと認識を新たにしたところです。以上、視察につきまして事務局からの説明を終わります。

(2) 加西市未来の学校構想(素案)に関するアンケート調査報告について

○会長

お忙しい中、急な日程調整の上で参加いただいた皆様、お疲れ様でした。事務局の説明のとおり、本市の改革に向けてのコミュニティ・スクールであるとか、複合施設とか、校舎自体のことであるとか、いろいろヒントがあったというご意見、説明であったと思います。

これについては、今後また本市の改革を検討する中で、随時参考にしていければと考えております。

では、続きまして報告事項の2つ目ですけれども、加西市未来の学校構想(素案)に関するアンケート調査報告についてであります。今回は速報値ということでありましたが、今回は詳細な内容をまとめております。これにつきましても事務局より説明をお願いいたします。

○事務局（人口増政策課）

前回の検討委員会では速報値ということで、各アンケートの選択肢の割合について皆様にご報告させていただきました。今回、その報告書にコメント内容を付け足した最終報告書が、お手元にある資料となります。

では、簡単に説明させていただきます。3頁から中学校の集計結果が始まっております。中学校は北条中を現状維持とし、善防中・加西中・泉中を統合する2校案について、1番は保護者、①は素案についての判断で、真ん中には帯グラフを示しております。その下には、各小学校区の分布を表した図になっております。4頁は「素案に賛成」の理由について5つの選択肢がありました。その割合を棒グラフで示しております。ここまでは前回で説明させていただいたところです。

自由記述は5頁から始まります。「素案に賛成」の選択肢の1つ「子どもの教育に関すること」について、126件のご意見がありました。全てを箇条書で掲載すると、こういった意見が多かったのかが、わかりづらくなりますので、126件を全部確認した上で、カテゴリー分けをしています。それが5頁のグラフです。4つのカテゴリーに分けて、その中で一番多かったのは、約6割の「生徒数による子どもへの影響」についてであったという見方になります。

具体的なコメントは6頁に箇条書で書いてあります。N=75というのは意見の件数です。「生徒数による子どもへの影響」の箇条書は12、「部活動」は4件掲載しています。全部載せると非常に大きい分量になりますので、事務局で幾つかをピックアップして、箇条書にまとめております。時間の都合上、全部はご紹介できませんが、7頁以降、左頁にはカテゴリーで分類された割合、右頁にはそれぞれのコメントの列記ということでまとめております。

補足としまして、24頁をご覧ください。前回の検討委員会で、「分からない」という回答を頂いた方が、こういった理由で「分からない」を選択したのか列記しています。見ていただくと、例えば、「住んでまだ間もないため」であるとか、「まだ子どもが小さいからよく分からない」、そういったご意見をいただいております。各カテゴリーの最後には「分からない」を選択された方の理由を列記しておりますので、またご確認いただけたらと思います。

以上が資料の見方になりますが、全体を通じて、中学校につきましては通学距離や通学時間に関するご意見が非常に多く、例えば、10頁を見ていただくと、「素案に賛成」の方の通学に関する意見ですが、最初の一行目、「将来的には素案の2校案にならざるを得ないと思いますが、スクールバスの運行や通学路の整備・安全等について十分な検討が必要だと思います」、その下、「人数を増やしてスクールバスになって欲しい」、その2つ下、「自転車で通えない地区に校舎が建つとなるとスクールバス通学になるが、部活動後のバス運営はしてもらえるのか、休日の部活動の送迎は保護者がしないといけなくなってしまうことへの不安がある」等々、スクールバスについては素案の中に記載はありましたが、こちらの方でも情報提供が上手くできてい

なかった部分があり、通学面を不安視されるご意見がございました。

一方、小学校につきましては、「中学校が統合するのであれば、小学校も統合すべき」というご意見が非常に多く、89頁の1番上、「小中一貫でなく中学だけ統合するメリットは。こども園統合、中学校統合、間の小学校はこのままでは子どもたちの人間関係に負担がある」とか、同じ頁の下から4つ目、「統廃合で経費を削減し、より質の高い教育を子どもたちに受けさせてほしい」、その下、「学園構想になったとしても、今までとは異なる効果的な取組ができず、逆に教職員の負担が増えると思う。学園構想を行わない代わりに統廃合の検討を早めたほうがいいと思う」などの意見がございました。

こちらの報告書につきましては、参考資料として皆様にご認識いただき、本日の協議事項として、このアンケートを踏まえた事務局からの提案について、ご協議いただきたいと思います。説明は以上です。

○会長

ありがとうございます。非常に詳細なまとめをされていると思います。今の説明にもありましたとおり、このアンケートの結果を踏まえて、各々協議事項の検討をしていくということになります。アンケートの結果報告書について、何かご意見ご質問等がありますでしょうか。

○A委員

前回のアンケートは速報値だけだったので、中身について楽しみにしていました。72頁、小学校の統廃合について「素案に賛成」、つまり、11校を存続させ、学園構想を進めていくという案に賛成の教育的効果という部分の理由についてです。この理由を読んでいると、どの保護者の方も、少人数よりは多くの子どもたちが交わる中で学ばせることの重要性は十分にわかっている、あたかもこの学園構想によって、そのことが解消されると思われているのではないかと受け止めました。11校存続というよりも、この学園構想によってデメリットが全て解消できると思われるのではと、この理由を読んでそう感じました。

○会長

前回の説明の中で、デメリットの解消ではなくて、緩和、軽減といった意味で使われていますけれども、完全にそのデメリットが解消するわけではないという意見ですね。

○A委員

保護者の方はそう思われているのではないかと。

○会長

そのような受け止めであったと思います。よろしいでしょうか。また、この中身については協議事項の際に参照しながら、ご意見いただければと思います。

3. 協議事項

- (1) 中学校の統合案について
- (2) 中学校の送迎バスの運行に関する試案について

○会長

協議事項にまいります。答申書作成に向けた基本的な考え方についてであります。今回のアンケート調査報告を受けて、また、各委員からもこれまでご意見をいただき、今後の答申に向けての方向性を示したいという前回のお話でありました。また、学園構想の説明もあり、それに関するご意見を頂いたところでもあります。前回の会議において、学園構想の全体像、概要を各委員で共有いただいたと思っております。

このたびは前回からのご意見を踏まえて、中学校統合に関する基本的な考え方を整理していこうと思います。答申書作成に向けた基本的な考え方について、中学校の統合案と送迎バスの運行に関する試案、そして、小学校の複式学級への対応の3点を事務局よりいただいております。

3点のうち中学校統合案と、送迎バス運行に関しては同じ中学校の議論でもありますので、先にこの2点を説明いただき、審議したいと思います。3点目の小学校の複式学級への対応については、その後、分けて審議をしたいと思います。それでは、事務局よりその2点の説明をお願いします。

○事務局（教育総務課）

中学校の2校案につきましては「素案に賛成」、「再検討の必要があり」の割合は、保護者については「素案に賛成」が4割、「素案の再検討が必要」も4割ございました。それから地域代表の方は、「素案に賛成」が3割、「素案の再検討が必要」が概ね5割です。また、教職員は、6割が「素案に賛成」、2割が「再検討が必要」という結果になっています。

「再検討の必要があり」の理由をもう少し見ていきますと、保護者の一番多かった理由が、「通学に関すること」が79.2%と最も高くなっています。それから地域代表も「通学に関すること」が一番多く、81.3%と最も高くなっています。教職員も「通学に関すること」が一番多くなっています。つまり、どの対象グループにとっても、「素案の再検討が必要あり」と答えた一番の理由は、「通学に関すること」という結果になっております。

通学やバスを丁寧に説明させていただくことが、中学校の2校案の理解促進につながるのではないかと、そのように考え、中学校の統合案と送迎バスを続けて説明したいと思います。

では、中学校の統合案につきまして、1頁をご覧ください。2校案の根拠というところです。今後、将来にわたって単学級が発生しない中学校の規模を確保していくためには、中学校1校あるいは2校という形になります。全中学生は現在959人います。1校だけになりますと1

学年に8から9クラスの規模になります。適正規模と言われる範囲を大きく超え、中学校の規模としては大きく、教職員も同じ学校のままでは異動ができない、部活動においても市内中学校間における対抗試合ができず、上位大会をめざすという目標設定や向上心を育みにくくなります。アンケートにおいても1校よりも2校の方が切磋琢磨する機会等を保つためにも良いという意見がありました。

アンケートでは「中学校は1つでもよいのでは」、「複数回の統合が非現実的だということに、なぜ1校にしないのか」という意見もありました。今後の少子化や合計特殊出生率が1を下回る現状を考えると、生徒児童数の推計もさらに下がり、ずっと先では1校の規模で十分ということが起こり得るかもしれません。そういったことで、2校よりも1校というご意見もあったことは事実です。しかし、アンケートでは、3中学校が1つになることに対して、「校区が広がり過ぎて、地域が希薄になる」、「小学校から中学校に上がると、急に生徒数が増え、子どもの負担も大きくなる」、「きめ細やかな対応が難しいのではないか」という心配の声もたくさんありました。当面にわたって今後も単学級が発生せず、適正規模が維持できるのであれば、無理に1校にして必要以上に地域を広げ、学校規模を大きくせずともよいという素案の考えであります。ただ、遠い将来に子どもの数が限りなく減ったときに、1校で十分ということはあるかもしれません。そのときには、これから新たに建てる統合中の敷地を広く取ることもできると考えます。

2頁をご覧ください。中学校の2校案を考えるときに小学校との連携を含めて考えていく必要があります。11校を存続するという素案について、保護者では概ね5割の方が「素案に賛成」。それから、地域の方も賛成の意見が多かったことから中学校の区割りについては、学園構想による効果を高めるために、小学校が進学する先の中学校区を分断しない中学校区を設定することを考えています。新たな中学校区の設定につきましては、学園構想による小学校教育の効果を継続できる枠組みを前提にしております。

アンケートではいろいろなご意見がありました。「小中一貫学校にすべき」、「中学校の統合よりも小学校の統合の方が先」、「学園構想は教職員に負担が大きい」など、そういったご意見もありました。小学校につきましては、後の複式学級の対応のところでお話をさせていただきます。図表2の学園図をご覧ください。現在の中学校区を色塗りしております。泉学園、加西学園、善防学園、北条学園ということで、同じ学園で色塗りしています。ここには4中学校の場所が記入されておきませんが、素案の4学園と2中学校になった場合、北条中以外の3中学校は、現在の校舎や用地が残ります。その利活用を図ることもアンケートの中に意見がありました。先ほどの生徒数の減少見込みと同様、今後の話ではありますが、あわせて学園のあり方とか、既存の3中学校の活用も考える必要があります。アンケートの中には、「現在の小学校区や中学校区にとらわれずに、校区を見直せばいい」というご意見も多数いただいております。ただ、これが本当の最終形と断定できないところもありますので、今後の統合を考えていく中で、統合のたびに中学校区や小学校区が変わるということは、避けるべきであります。むしろ、

様々な可能性も想定に置きながら、学園の枠組みはこの形で中学校区を考えておくのがよいと考えております。

3頁をご覧ください。学園単位による4中学校による2校案の組合せは7通り考えられます。①番は素案。北条と、泉、加西、善防の3中で1中。それから②番、これはアンケートの中にもありました。北条と善防を一つにした中学校、もう一方は泉と加西を一つにした中学校の2校案です。それから③番。善防と加西を一つにした中学校と、北条と泉を一つにした中学校。あと、素案のバリエーションの違いですが、善防のみを残して北条、泉、加西を一つにする④番、加西を残して北条、善防、泉を一つにする⑤番、泉を残して、北条、善防、加西を一つにする⑥番。それから、ねじれの位置で、善防と泉、北条と加西という組合せの⑦番になります。色塗りの部分は、新校舎の整備あるいは大規模な改修工事が必要な学校ということで、加西中は令和8年、善防中学校は令和11年に大規模な改修を見込んでいるので、統合の仕方によってはこのように校舎整備が必要になるということで色塗りをしています。

2校案の根拠は、2つの中学校の生徒数が今後においてもおおむね均衡することが望ましいと考えています。また、多額の費用を導入して整備する統合中学校で近い将来に単学級が発生することによって、教員の免許外による指導等といった小規模中学校のデメリットを避けなければなりません。2校案におきましては、次の4つの条件を満たす必要があると考えております。2つの中学校の生徒数が将来にわたって均衡する。先ほどの説明のとおりです。この条件では、④番、⑤番、⑥番、⑦番が難しいと考えます。2つ目は単学級が発生するおそれがない。これも1頁の説明のとおりです。3つ目。整備にかかるコストを考慮するという事です。アンケートの中にも財政面に関する意見がありました。統合において校舎の維持等のコスト減が図られることもあります。「新校舎の整備やバス運行の費用も捻出できるのでは」という意見もありました。どの程度の投資を行うことができるのか、財政的な見通しを持つことはとても大事なことです。将来的な費用を見積もることは、市全体で計画を進めていく上で、考慮していく必要があると考えています。4つ目は、生徒に及ぼす影響を最小限にとどめるということです。分かりやすく申し上げますと、学校規模の適正化、小規模校の課題の解消、緩和を進めるために、統合の必要性のない学校の生徒まで巻き込むことはないという考え方であります。そういう意味におきまして、どれだけの生徒に影響が及ぶかということも考慮のポイントと考えています。

加西市の人口は北条中学校区に集中しています。加西市の都市計画で、そのような形にはなっています。今の4中学校を単純に南北や東西で2校に分割しますと、一方の中学校の規模が大きくなります。どちらに北条地区が入るかによって一方が大きくなります。単純に今の中学校区で南北、東西で区切ると同じ規模の学校は確保できないと状態です。

図表3の②番は東側が加西市と泉中、西側が北条中と善防中です。③番は北側が北条中と泉中、南側が善防中と加西中という分けです。②番も③番も、北条地区を含む中学校区の方が増えてしまう。アンケートの中にも②番、③番の分け方がいいというご意見が多数ありました。

ただ、これについては5頁をご覧ください。図表5の同じ②番、③番に該当します。今から20年先の生徒の比率では、②番は66%と33%で、北条中が多くなって、平均クラス数も3クラス以上ありますが、加西、泉の統合中は2クラスに満たず、単学級にならざるを得ない状況になります。③番も、泉、北条の統合中は、3クラスを見込めますが、善防と加西だけの統合中では2クラス以下で、これも単学級になる可能性が高くなります。②番、③番は2校の均衡が取れない、それと単学級の発生がネックとなります。

さらに、北条中学校側の中学校規模が大きいということは、当然、北条中校舎に善防ないしは泉の生徒が入ることになりますので、現在の北条中学校校舎に収まり切らず、その結果、②番と③番は、校舎の増築が必要になります。もう一方の統合中は新築です。北条中も校舎を建て増しする必要が生じます。2つの中学校を同時に整備するということになりますと、やはり短期間に大きな財政負担を伴うことが予測されます。

4頁をご覧ください。今度はその東西と南北をもう少し細かく分けた案になります。図表4の⑧番を東西案、⑨番を南北案という名で呼びたいと思います。人口の一番多い北条中学校から北条東小学校を1校切り離して、善防中学校を加えた⑧東西案、それから、現在の北条中学校区から同じく北条東小学校を切り離して、泉中学校を加えたのが⑨南北案です。この東西案、南北案は、第3回、第6回の委員会でも、ご意見いただいた案です。

この場合、2校の生徒数は均衡します。これも同じように5頁の図表5の⑧東西案、⑨南北案をご覧ください。右端の令和23年度平均クラス数を見ますと2.2と3.0、2.1と3.1ということで、これはどちらも2クラスを確保できています。生徒数のバランスが非常にいいです。生徒比率も42.4と57.6、40.2と59.8ということで均衡が取れています。

ただ、この2校の生徒数は均衡しますが、校舎の収まり具合について、再び5頁をご覧ください。素案の北条中が令和3年に396人、令和8年は442人で推移します。⑧東西案は令和8年は426人ということで、人数は収まると見えています。⑨南北案は、最終的には減少して大丈夫ですが、令和8年前後が若干増えるということで、状況によっては校舎に収まらない可能性を含んでいます。⑧東西案、⑨南北案ですが、北条中で善防あるいは泉の生徒の受け入れるとなると、当然バスを走らせることとなります。新しい中学校もバスを走らせるし、北条中でもバスを走らせるという形になります。新たな中学校であれば、新たな用地を確保する際に、ターミナルとかロータリーとかを確保することが可能ですが、既存の北条中の敷地にロータリーやバスが入るターミナルを造るとなると、敷地内に整備が必要となります。

この図表4の⑧東西案をよく見ていただくと、北条中学校区の中の北条東小学校区の出身の生徒が他校区に移って、逆に、北条東小学校区の代わりに、善防中学校区の生徒と入れ替わるということになります。⑨南北案も北条東小学校区の生徒が他校区に移って、泉中学校区の生徒が入れ替わる形になります。5頁の生徒数も北条東小学校出身の生徒だけ拾い上げているので、推計の推計で少し難しいところがありますが、今の北条中学校区の中でそれぞれに分かれ

るという形になります。小学校区は分断しない。これは前回もご意見いただいたところです。小学校区は分かれませんが、北条中学校区から北条東小学校区が分離する形になります。北条中学校区が二つに分かれるという、結果的にはそうなります。

人口が集中する北条中学校区を分断することは、先ほどの話にもありましたように、中学校の生徒に影響が及び範囲が必要以上に広がることとなります。先ほどの学園構想の話にありましたように、新たな中学校の設定においては、学園構想による小学校区の効果を継続できる学校区の設定が必要と考えておまして、小学校区、中学校区を分断させないという視点に立つとすれば、これについては中学校区を分断せざるを得ないという形になってしまいます。

こういった観点から、北条中は建設時期が平成23年で、比較的新しい校舎をしっかりと活用するというで残し、善防、加西、泉の3中学校を統合するという2校案が、将来にわたって生徒数が均衡し、単学級も発生するおそれがない、あるいは今後の想定や可能性も踏まえて、当然、課題もあるのでベストとは言えませんが、少なくとも考えられる案の中では一番望ましい、ベターな案ではないかと考えているところです。そういうところで、「結局、素案のままではないか」とお叱りもいただくかもしれませんが、事務局としましては、この案を今後、答申に向けてまとめていければと考えているところであります。

これらの内容をまとめたものが5頁下の表です。学園構想との連携、既存中学校区の維持、2校の生徒数の均衡、単学級が発生するおそれがないなどを一覧にまとめております。

それから、整備費用で、新築校舎1校であれば「コスト中」と設定し、それより費用が高く見込まれるものについては「コスト高」と表示しています。例えば②番、③番は新築校舎1校と増築が伴いますので「コスト高」となっております。⑧東西案、⑨南北案も括弧つきですけど、何らかの整備が既存校舎の方で必要になるということで、加味させていただいております。

続いて、(2)中学校の送迎バスの運行に関する試案についてです。

「素案の見直しが必要」と考えた最大の理由として「通学に関すること」が8割を占めます。

この件については前回、何らかの形で事務局からの提案をお話ししておりましたので、中学校の2校案とバスの件について今回、しっかり詰めていきたいと思っております。ただ、本当にバスのことは、具体的に考えていくと本当に難しい問題もあります。なかなかこういった場で詳細な部分は決められないと思っておりますので、今現在、考えられる限りということで、バス運行に関する試案ということで、ご理解いただきたいと思っております。

アンケート結果では、通学に関する懸念の声が多く寄せられました。その懸念を解消するための一つの方策として、送迎バスの運行を考えています。送迎バス、スクールバス、どちらで呼んでもいいと思っております。送迎バスの活用に関する詳細は、今後、地域の方々や保護者の理解を頂いた上で推進するものとしませんが、ここは試案あるいは一例という形で、ご提示させてい

ただきます。詳細な運行内容につきましては、何度も申し上げますが、別途、協議の場を設けてそちらで検討していきたいと考えています。

試案ですが、まず対象者です。通学の距離に関係なく、統合中学校に通う生徒全員をバスの利用対象者にすべきと考えております。全員がバスに乗れます。ただ、私は家が近いので自転車でいきたいという生徒もいます。その生徒はバスに乗ることもできるし、自転車を選擇することもできるということで考えております。料金は、アンケートの中にも触れられていました。バスの送迎費用は加西市が負担し、生徒から運賃は徴収せず、バス料金は無償化を検討していきたいと考えております。乗っても乗らなくても料金負担が発生しないことが望ましいことと考えております。

バスの必要台数は統合中学校に立地する8小学校区に大型バスを複数台配備していきたいと考えております。8小学校区というのは、素案の組合せですが、賀茂、下里、九会、富合、日吉、宇仁、西在田、泉の8小学校区になります。

乗車場所は一例としまして、各8小学校区から統合中学校へのピストン輸送を行います。8小学校を送迎するバスの起点としますが、これは一例です。宇仁校区であれば宇仁小学校から出るというわけではなくて、国正から出てもよいし、西在田でしたら、上万願寺から出発してもいいと思いますし、泉小なら上芥田から出発することもあるかと思えます。それぞれ地域の実情に合わせて、コースを設定していただければいいのかなと。イメージ的には、各小学校から中学校に向かってバスが出るという大まかなイメージで協議いただければと考えております。

その場合の課題ですが、小学校の子どもたちは歩いて来ますので、そこへバスが入ってくることになりますから、通学路や導線の確保が大きな課題になります。また、小学校に自転車で来る生徒には、駐輪場の確保も課題になると思います。こういったところは本当にいろんな問題があると思いますが、小学校単位で送迎できる形を進めていきたいと思えます。

ご意見が多かったのが、部活動との調整です。毎日の部活動の終了時にもバスは対応していきたいと考えております。土日あるいは日曜日の部活動の送迎時間にも、バスを走らせていく必要があると考えております。

バスで通学すると、どのぐらいの時間がかかるのかということですが、これも第3回の会議で説明がありましたが、各中学校から今一番遠い生徒の自転車通学の状況は、北条中で20分程度、善防中で30分程度、加西中で40分、泉中で40分ということで、統合中の位置を今の素案の例ですが、北条高校からインター間の真ん中あたりということで勝手に人様の土地なので憚られますが、例えばJA会館周辺に仮定するとしまして、そこから車で一番遠い地区まで15分程度と考えています。ただ、バスの本数やコース、停車箇所を考慮すると、それ以上に時間がかかりますので、現状で自転車通学の一番遠いところの40分を一つの目安と考えて、それ以下になるようなバスの走らせ方が必要と考えております。

バス運行に係る財政負担につきましては、統合中学校の整備費とバス運行を含む維持管理費の総額は、現在の3中学校の維持費、施設改修費の総額を下回ることを想定する必要があると考えております。統合中学をたくさん建てるということであれば、また、それはそれで考えないといけないと思いますが、素案の例でいきますとそういう形で今のところ想定をしております。以上、長くなりましたが、答申書作成に向けた基本的な考え方ということでご説明させていただきました。

○会長

丁寧に説明いただきました。では、今の(1)(2)の説明について、ご意見、ご質問等ございませんでしょうか。

○OB 委員

今の説明を聞かせていただきまして、私が思ったことをこれから申します。2頁の加西市の地図、学園図が出ているところを開いていただきまして、文章の上から3行目、「中学校の区割りについては、学園構想による効果を高めるため、小学生が進学する先の中学校区を分断しない中学校区を設定することが求められます」云々と書いてあります。

小学校の学園構想自体がまだ言い出したばかりで、これからどうなるか分からないという、具体的なイメージは誰にも湧いていないですが、そんな段階で早々と学園効果が下がると、いけないようなそんなタブーをつくるというのはどうなのでしょう。こんなに早くここは駄目ですというタブーをつくってしまうと、自由な討論を阻害することになると思います。いろんな分野の人が来ていますから、もっと自由に討論できるように、こういったところで教育委員会側が「もうここはタブーですよ。不可侵ですよ。」と言ってしまうのは、ちょっとおかしいのではないかと思いました。

もう一つは、たくさんの学園単位の統合案を①から⑨番まで説明してもらいましたが、その中で①番は、教育委員会から最初に出てきた案です。これは3中合併ということで、私が以前から「これはクロワッサン」だと言っています。ソーセージが曲がってクロワッサンみたいな変な形をしている。しかも広大な校区の地図だと思います。ごく普通の住民の常識的な感覚から見れば、やはりあれはおかしいです。あれを見ておかしいと普通は思いますよ。だから、これから校区割りをするのに、こんな普通の常識的感覚から見たら、ちょっとおかしいと思われるような校区割りはするべきではないと思います。

○事務局（教育総務課）

学園のことは本当に始まったばかりで、これから考えていくことです。これでない駄目とか、タブーとか、そんなことは一切考えておりません。本当に学園そのものが新しい概念ですから、これから築き上げていくべきものと思います。その考え方に、これが間違いとか、これはおかしいと言うべきでないという前提に立つならば、次のクロワッサンのことについても、

これがタブーとか、おかしいとか言うのではなく、自由に議論していただいてもいいと、両方ともそのように思いますので、そこは結果ありきということではなく、大いに議論を深めていただければと考えております。

OB 委員

分かりました。そうであれば、ここの2頁に書いてあります北条学園とか加西学園なんかの学園、小学校が2つ3つ集まって学園をつくる。これを分割するということもタブーではないと。これも含めた考え方ということによろしいですね。

OC 委員

中学校には中学校の校長会というものがあまして、この4月から毎月通っています。今日も後ろに傍聴で校長も来てくれています。この様子を見てもらった上で、校長会のときには、中学校のことだけじゃなくて小学校のことと一緒に話をします。その代表の立場で意見をずっと言わせてもらっています。今回の視察報告については文書で流していますが、まだきちんと話し合いはしていませんが、それ以前までは、毎回話をしています。その中で、4人の校長はそれぞれ中学校で教員として勤め、管理職としても勤め、職員全員から意見を聞けてはいませんが、身近な教頭には「こんなふうになっているけれど、どうかな」と言いながら、8人で話をしながらの結論と思って聞いていただきたいと思います。

校区割り云々よりも、まずは3つ思っていることがあります。1つはよく言いますが、適正規模の学校を何とか2つできないだろうかということです。できれば、凸凹した適正規模ではなくて、同じ規模の学校ができたら一番いいなということ。それから、時々この場でも出ています特別な配慮が必要な子どもたちが増えるのではないかっていうのもありますが、教員数が確保できるのであれば、支援はやはり、できることがいっぱいあるので、小さな学校であれば職員の数も少ないのでなかなか難しいけれど、職員の数はどうしても必要で、それを確保しようと思うと適正規模の学校がいいなということを話しています。

今、B委員から出ましたもう一度、小学校区も分けてみたらっていう話も、中学校で話をしました。令和8年度にめざす素案にある1つの学校ともう1つの学校を比べると、北条中学校の方が小さいのです。3つの学校を統合したら、その学校の方が一旦大きくなります。だから、新しい学校をちょっと少なくして、北条中と同じ規模の学校にしようとしたら、例えば賀茂小学校の子どもたちなら、北条中に近いから、北条中に来たらどうだろうと、もしそう考えたら数的には何となくいい数になります。そうすると令和8年4月に新しい学校ができます。令和7年度までは善防中に行っていたのに、次の年から北条中に行くと、「そんなかわいそうなことやったらあかんで」という話になって、今ある形の中で、何とかうまくできないのかなってというのが1つ目です。

2つ目は、新しい学校を造るのであれば、それはやっぱり立派な学校を造ってほしいと思い

ます。誰もが羨むというか、北条中に行っている子たちですら、「あっちの学校がいいやん」というぐらいの、今の機能を完備したい学校を造る必要があるだろうということです。

もう1つは、僕たちは定年でもういないのですが、10年後ではなく、もう少し先を考えたら、どんどん生徒数は減ってきている。だから、この中でも議論があるみたいに中学校1校でもいいのと違うかっていうのは、また出てくると思います。そのときに、もう一回考えてもらってもいいですが、でも、どうせそうなるのであれば、加西市の真ん中に大きな学校を造っておいて、そこに新しい学校を造って、中学校は2校にしておきながら、最終的には北条中学校もその新しい学校に行くような、そんなのもいいのと違うかっていうのが、中学校の校長会の中での意見です。

その中で出てくる2つの問題点がありまして、1つ目は通学区域が広いということです。そこは何とか先進的にされているところから教えてもらいながら、通学バスを走らせて何とかならないかというのはあります。そこは委員の方々の意見等、これから考えていけばいいと思います。

もう1つは不登校の問題です。このアンケートの中にもたくさんありましたが、新しい学校1校に対して、8つの小学校から集まってきます。泉中の校長が言っていましたが、「4つの小学校から1つの中学校に来るだけでもなかなか大変なのに、それが8つになったら、もっと大変」だと。「そのとおりやな」と4人で話をしました。そのために、小小の連携や小中の連携の在り方について、もっといい方法がないか考えていかないといけないと協議しているところです。

個人的な思いですが、不登校については、昨年度、教育長から不登校の特例校について調べしてほしいと依頼があり、不登校の特例校のある京都市や岐阜市に視察に行きました。この中学校の統廃合の話が進み、もしもどこかの校舎が空くとすれば、その後の利用として、そこが不登校の特例校になるといいなと思いました。ただ、すぐにはできそうにないので、一旦は総合教育センターの中にある適応教室、「ふれあいホーム」といいますが、そのふれあいホームを充実できないかと、そのように考えていました。今回、視察に行き、鎌田中学校の中に教室があって、そこに常勤の先生がいて、子どもたちと関わっているということを知って、これはとてもいいことだと思いました。

話が長くなりますが、私は総合教育センターの所長を2年間しました。そのときに何とか不登校を減らしたい、学校支援をしていきたいということはずっと思っていました。1年目、2年目のとき、ふれあいホームの職員は、常勤の先生が1人と、週3日来る先生が2人いました。なかなか手いっぱいだったので、常勤の先生が3人の体制をつくらうとして予算を取って実現しました。

その当時、中学校には行けないけれど、図書館までなら行ける生徒がいました。その子の支援ができないか、図書館にも話をしに行き、部屋の確保は難しかったのですが、もしその子が

図書館に来たら、ふれあいホームから先生を派遣して、そこで話をしたり、そこから学校へつないだりしたことを思い出しました。新しい学校で、適応教室やふれあいホームの先生を確保して、常勤で学校に行く形で、時間は短くても構わないので、それならできないのではないかと個人的には思っています。

ただ、これは中学の校長会で話した内容でも何でもないので、今後、視察した内容等も伝えて、校長たちの意見を聞きながら、知恵を出して、また、この場で報告できたらいいなと思っています。

○会長

Ｃ委員は、基本、素案に沿った形で進めると。ただ、素案にはなかったような教員数の確保による特別支援教育の充実であるとか、不登校支援とか、そういったような部分も取り入れていくこととか、いずれ１中になる時期が来た場合、北条中の生徒が新統合中のほうに移っていくことも検討できるという意見でした。

○Ｃ委員

もう１つ校長会で話した内容があります。令和８年４月に新しい中学校をつくるとすれば、令和６年度に入学する子どもたちは、３年生になるときに新しい学校になります。だから、来年の令和５年度中に新しい制服や新しい体操服を決めて、それこそ今どきですので、セーラー服とか学生服はやめて、ブレザーにして、女の子もスカートじゃなくてもズボンでもいいのではということも協議して、令和６年４月、各３中学校に入学する子どもたちも同じ制服、同じ体操服にして、令和８年４月１日にはぴしゃっと３学年みんな同じ制服、同じ体操服がいいのではという話もしています。

○会長

移行期も含めて検討すべきだということは前回も意見をいただきました。その一つとして制服も今新しく提案いただきました。ありがとうございました。

○Ｄ委員

私も統合の形が北条中学１校で、あと、３中が合同になるのかどうかというところは、フィフティフィフティの思いがあります。まず、結論のそこはお話しさせていただきたいと思いますが、それよりも思っていることが２つあります。

統合中の魅力をどうつくるのかってところが、すごく大事になってくると思っています。

鎌田中学校に行かれて、すごくいい学校だと感じられたことですが、私はどうせ造るなら、新しい教育の形をめざすべきじゃないかと思っています。それはもうずっとお話しさせてもらっていますが、学校教育というところのセンスから超えて、本当に新しく多様性を求めるとか。「すごいのができたね」って。

学校教育の枠っていうのは本当にかちがちになっていますが、そのところを超えた形で、

鎌田中の場合は社会教育とつながっているというところとか、私はこども園も老人ホームも全部くっついていけばいいのになってよく思うことがあります。そういう何かすごい魅力を持てば、私はどこで分けようと子どもたちは誇りを持って、その方に魅力を感じて通ってくれるのではないかと考えています。

2つ目は、不登校のことです。C委員からもお話しいただきましたが、常々、不登校の子どもたちってすごく多様なのに、選択肢がありません。表現はどうかと思いますが、学校に行くのか、適用教室に行くのか、それとも家にいるみたいな。もう学校へ行くことが不登校の解決というセンス自体、私はちょっと違っていると思っています。

そういう意味でも統合中のところに新しいセンスを持ち込んでいただけたらいいなと思います。不登校の新しい形を加西の統合中はやっているということ在全国に発信できるように。それも素敵なことだと思います。

制服の話が出ていました。私の専門のところですので、お話しさせていただきます。実はある高校の1年生に意識調査を行いました。総数 273 人のうち、4人の子どもが、自分の性別が揺らいでいると回答しました。その子たち4人が4人とも、自由記述で制服を何とかしてくれと。男の子の制服、女の子の制服と決まっていることが嫌だと。私服になりたいということをしてすごく書いていたんです。

私、それも多様性という意味で、もし新しい中学を造られるのであれば、制服ありきっていうところも考え直したらどうだろうってと思います。ダイバシティインクルージョンっていうのが、最近、経済界でも言われていて、それが教育界にも入っていて、多様で平等で、寛容であるっていう社会を、新しい中学校で具現化できたら、どういう分け方であれ、よいのではないかと思います。

○会長

統合中をどう魅力ある学校にしていくのかという点は、大事な検討事項だと思います。ただ、この委員会の場でどこまで詰めていくか、また詰めていっていいかというところは、少し検討が必要かもしれません。また、統合中の新しい取組について考えていくと同時に、その取組が既存の北条中の魅力にもつながることで、市全体の中学校の魅力が増すようになればいいのではないかと考えて聞いていました。

○OB委員

この素案は、人口とか将来の子ども数とかを予測するのに、今のものをベースにして予測しないで、将来どんどん子どもが減っていく、それについてどうしたらいいのかという話になってしまうと思います。でも、世の中ってものすごく変わります。例えば、ペットボトルにお金を出してお茶を買って飲む。こんなの25年前、私は想像していませんでした。お茶は自分の家で入れて飲む。水もペットボトルの水を100円出して飲むって、そんな発想もなかったです。ここ僅か20年ぐらいでもうそれが当たり前になってしまいました。だから、今の感覚

で将来を、こういう統計の場合は仕方がないですが、しかし、それだけで見ていいのかって思います。

例えば、加西市はどんどん人口が減っていくと言っていますが、昼間人口は多いです。製造業とか地元の地場産業がかなり活発に調子良く経営されており、夜間人口より昼間人口の方が多。就業人口が多いですから、実際に朝の8時に加古川方面に向かって走っておりますと、こちらの加西から加古川方面に行く人も多。でも、その反対の高砂加古川から加西方面へ来る車も、同じぐらいの数が通っています。朝はかなり混んでいます。いわゆる県道高砂北条線ですね。それぐらい加西市には仕事に来る人が多い、仕事は多いということです。それで、加西の場合は位置的な条件として、加西の南部なんかは特に条件が良ければ若い人が住んでくれます。そういった若い人の手の届くような住宅の物件とかそういう供給があって、なおかつ加西市は今、子育て支援を非常に頑張っておられますね。

今度は0歳から5歳まで全部保育料は無料。そして、給食代も全部無料だという。これはもうかなり先頭を走っていると思います。私も関係者ですが、関係する東播磨や県の会合に行きましても、加西は今度こういうことをやりますと言うと、かなりみんなびっくりされます。もうそこまで行ったかと。かなり前の方を今、加西市は走り出したと思います。0歳から5歳までの保育料が無料ということは、言い換えれば、要するに義務教育化したということです。そんなことまでやっているの、多分、加西市はこれからの若い人、これから子育てをしようと思う人にとっては、魅力的な選択できる可能性のある都市になっていくでしょう。

それで、これから今、人手不足が随分激しいのですが、経団連とかの経済的な予想でいきますと、これからまだ20年後は850万人の人手が足らなくなると言われています。今から2040年までになると、今のままだと850万人日本の労働力は足らないと。AIでは補い切れません。日本政府もこの間、外国人の受入れ枠を35万人増やすということを発表しておりました。850万人というのは、どうしようもない人手不足で、いいか悪いかは別として外国人労働者に頼りざるを得ないということで、日本政府も35万人という受入れ枠が出たんだと思います。

普遍して考えていきますと、将来的に加西市にもたくさんの外国人の方が住んで、そこで働かれるようになるのではないかと。今でも結構たくさんおられます。それは知っていますけれども、さらに増えるのではと。そうすれば、新しい統合中学校は、そういった外国人の保護者と子どもたちに対しても開かれていかないとはいけません。それによって人数も増えるということで、それを配慮に入れて私たちは計画するべきではないかなと思います。このままずっともうじりじりというわけではないと私はそのように思っています。

○会長

今ある数値からの予測ということで、今回は資料を作ってもらっていますが、前回からの続きで、今回のこの統合案は素案と同じ形でより内容を詰めていったという形です。学園構想を

基本にしながら3頁に書いているような4つの視点を考慮すると最もベターではないかという案で、素案が改めて確認されたということになります。

OB 委員

いえ、確認はしてないです。

○会長

提案については、4頁に書かれている点はそういう形にしましょうということです。それについてはどう思われますか。

OB 委員

教育委員会は素案がベスト、あるいはベストでなくてもベターであろうということでしたが、私はこの⑨番の南北案、これが一番バランスがいいのではないかと考えております。南北案は、現在ある北条中学校から北条東小学校の校区を分離して、善防中、加西中プラス北条東小学校で南中学校をつくる。残りの北条小学校、富田小学校、プラス泉中学校で北中学校をつくるという案です。これでいきますと、面積にもちょうど半分半分の75平方キロぐらいになりますし、収まりのいい形です。なおかつ、両方とも市街地の子どもたちと、それから、農村部の子どもたちの両方を入れていく方法で、非常にバランスのいい校区になると思っています。

3中統合はあまりにもアンバランスです。そして、ちょっと言い過ぎかもしれませんが、北条中学校区があまりにも特権的な地域であり過ぎる。それでは、ほかの3中の子どもたちはどんな気持ちになるのか。人口が少ないから我々はこんなクロワッサンみたいなところで、広いところで毎日バスに乗って通って、北条地区は全く今までと同じなんだと。それはちょっと市民感情からしても、住民感情としてもおかしいのではないかな。

やはり平等に負担を受けたいと思いますし、学校自体はまず南中学校を最初に新築して、この間も三重県のすばらしい学校を見に行きましたけど、ああいうものを参考に、本当に「入ったらいいな」と思えるようなところを建てていただいて、北は北条中学校の校舎が新しいということですので、しばらくはそれでしので、でも、十年後ぐらいにやはり耐用年数が来ましたら、もう一つ北中も新しい学校を造るということで、南と北のバランスが取れて、なおかつ新しい住民、外国人とかそういった方にも対応しやすい、誰が見てもそうだなと納得しやすい校区ができるのではないかと思います、いかがでしょうか。

○会長

今のご意見、いいご意見ですけれども、この図表6を見ていただいて、①番の素案が、学園構想との連携、既存中学校区の維持、2校間の生徒数が将来的にも均衡する、それから、2校とも単学級が発生するおそれが少ない、それから、整備費用やコスト、その5点がおおむね取れた候補に挙がっております。でも、9番の南北案も検討可能じゃないかという、それがB委員の意見です。E委員お願いします。

OE 委員

D 委員もおっしゃられていましたが、最新で魅力のある新しい統合された学校をつくってほしいというのは、それはこれからもっと案を練って行って、統廃合をされた学校を構想していくことが大切だと私は思います。逆に、北条中が今の中学校のまま継続するっていうのは、逆に何か北条の子どもたちにとってみると、「何かいい学校ができていのに、自分らは何か違うよね」という思いが発生するのではないかって思います。

できれば両方の学校が新しくなる中学校というように、例えば、北条中はそのままかもしれないですが、中身のシステムっていうのは、加西市に新たな中学校ができますよっていうのをつくる。新しい学校ができると子どもたちもそこが楽しいと思うので、その辺のところのバランスをもう少し子どもたちの目線で考えてもらいたいなと。

できれば南北で分けるとか、子どもたちの選択肢を増やしてあげてほしいと思うので、例えば北条中の子でも、新しい学校に行ける選択肢を増やしてあげられる方法はないのかなと思います。それはなぜかっていうと、加西中の子どもでも、善防中には男子バレーがないと、だから、こちら側の方の部活動にわざわざ自転車に乗ってきている子どもたちもありますので、たとえ令和8年になったときでも一学年 100 名ぐらいでしたら、僕らの子どものときみたいなたくさん部活動ができるわけではないので、両方ともバランスよくというのはなかなか難しいと思います。子どもたちにも、例えば部活動、学校の魅力っていうのを選択できるように、北条中からも新しい学校に登校できるようなシステムをつくることで、子どもたちの選択肢が増えていいのではないかと思います。

あと、私も鎌田中に行ったときに C 委員が言われていましたように、学校の中にそういうシステムをつくる。本当にそれは北条中であっても、新しい学校や別にある施設を使って、子どもたちのフォローができるっていうところは、手厚く総合的に考えていただければと思います。

O 会長

B 委員と E 委員の二つの意見を伺ったところでも、B 委員は、統合中をつくるとそちらがかわいそうだというイメージ。中学校は北条だけが特権をもつという意見があるんだと思いました。だけど、E 委員は、統合中の方が魅力の新しい学校で、北条中は全体の中で 1 校違うみたいな不公平感を感じるのではないかっていう話ですね。

OB 委員

E 委員と私の意見は同じ意見で、別の視点から言っているだけで、同じ意見だと思います。私はかわいそうだと言いましたが、それはこの長距離を通うとか、広大な校区を与えられて、そこで一つになるところのマイナスを考えたらかわいそうですけれど、すばらしい学校ができるということ、校舎ができるということは、それはメリットだ。でも、そのためにあのような変な校区をつくる必要があるのかということを行っている。

○会長

通学のことですか。

OB 委員

通学とか、それから、地域社会の意識ですね。地域社会だってあんな大きな校区で、地元の学校っていう意識が、私はできるとは思えないです。

○会長

E 委員の意見を伺っていて、とても大事なことをおっしゃったと思います。北条中の子どもが統合中を選択するかどうかというところは、制度的にはいろいろ難しい問題があるかもしれませんが、慎重に考える必要があると思います。ですが、多分、E 委員が言われたのは統合中だけじゃなくて、北条中の魅力も上げていくということですよ。そこを同時に考えていく必要があるっていうことは、本当にそのとおりだと思いました。関連してほかにご意見ありますでしょうか。

OF 委員

この①から⑨番まで案が出ておりますが、この基になっているのは生徒の数で、将来にわたって出ていると思います。ここに出ているのは 19 年後の令和 23 年の数字が出ております。

こういう数字になりますが、一方で私は区長という立場上、昨年から都市計画課で、市内の特別区域の見直しをされております。私の町ももちろん対象になっております。ご存じだと思いますが、加西市は非常に市街化調整区域が多い。全国で四つぐらい多いところがある中の一つに入っているということで、それが発展しない、あるいは人口が増えない1つの要因になっているのではないかとされておりまして。

そういうことも含めて将来人口がどうなるのかは、非常に難しいとは思いますが、特別区域の見直しの中で、市内はもちろんですが、市外の方も家を建てられるような区域を設定しようと、まだ決定しておりませんが、今見直しをされております。

ただ、土地のことですので売る方がいなければ購入できないわけですが、今まではそういうことができなかったわけです。農家だけとか、あるいは地元で 10 年以上継続して住んでいるとかいう条件があったわけですから、一部ですけれども、それも解除できないかということは今、都市計画課でされております。

そういうことも総合的に踏まえたら、人口というのは分かりにくいですけども、私はこの間から疑問ではないですが、どうなのかなと。20 年後先の人口、生徒の数ということと言いますと、ただ、数字を出さないと仕方がないのでこうなっているのではないかと思います。

特に泉中学は大幅に減るようになっていきますね、二桁に。70 名ぐらいですか、というようになっていますから、ちょっと違和感があるんですが。

ただ、そう言っても結論を出さなくてはいけないということであれば、やはりこの間の鎌田中学校ではないですけども、統合するのであれば、もう周りの近隣の市からも立派な中

学校ができたと言われるような、校舎が立派ということではなく内容的に、というのを願っていたと私は個人的に思っております。

○会長

素案についてはどういう意見でしょうか。

○F 委員

素案についてはね、下に書いてある校舎の改築とかいろんなことが絡んでくるのではないかと思っております。厳しい財政事情の中でね。新築1個プラスまた増築というような案については、そういうことも検討しなければいけないことも総合的に関係しますと、私自身は素案でいいのではないかと思っております。ただ、今言いましたような内容的にはいろんなことを考慮する必要があるというように思っております。

○会長

G 委員、ご意見の手紙ですね。

○G 委員

先月、会議が終わってから、私から PTA と相談して手紙を出しました。園に意見箱を置いてから、次の日に意見がたくさん入っていたのを見て、賀茂の保護者様の意識の高さをとても感じました。私はこども園保護者代表で来ているので、保護者様の意見を伝えたいと思います。

3つ聞きました。「気になること」、「どんな学校にしてほしいか」、「その他」の3つについて聞きました。まず、1つ目の気になることについては、アンケートの結果と同様、「通学方法の心配」についてでした。「財政」とか、「酔いやすい子のケア」、「部活の時間の確保」、「長期休暇や夏休みの対応」など送迎についての心配が多かったです。そして、「小規模から統合することにより、多感な年頃である友達や先生との人間関係の問題」、「きめ細かなケアや目配りができるのか」と、「教職員の質や人数」、そして、「新設場所の問題」がとても気になっておられるようでした。

そして、2つ目、どんな学校にしてほしいかについて、「子どもたちそれぞれの個性を伸ばし、人間性をしっかり構築できるような学校」、「活気あふれる楽しい学校」、「各教室を数名の教師で見守りし、しっかり目が届くようにしてほしい」、「日頃から地域の方たちも子どもたちを見守ってくれる学校」、「子どもたちを一人も取りこぼさない個性、特性が輝く学校、その上で外部講師やICTを活用し、より広く若い知識に触れられる機会をつくってほしい、大きくなると問題にぶつかることも多くなるがゆえの不登校や置いていかれる子どもたちの受け皿や発達障害についても、園でも小学校でも分からなかった子どもたちが、中学校で分かたりするという可能性も含め支援級や、また、支援級までいけないグレーな子どもたちのしっかりしたフォローは絶対必須である」という意見が出ました。

3つ目のその他は、「多感な年齢の時期にこれまでのお友達とクラスが離れた、グループが分かれたというだけで、学校に行きづらくなってしまいうので、子どもたちに不安にしっかりと寄り添い、子どもたちの意見も取り入れた新しい学校づくりをしてほしい」、「今の人口減少を考えると致し方ないのかなと思う」、「2校統合に当たってのメリット、デメリットを丁寧に説明してほしい」、「複数クラスになると戸惑うのではないかなかなかなじめない子も増えると思う。これが志望する高校であれば本人も納得するだろうが、大人たちの都合で子どもたちが振り回されてしまわないように」という意見が出ました。

今回アンケートの報告書の16頁の中にある「生徒数による子どもへの影響」として挙がっているところと似た意見をいただいたと思います。やはり、そこに載っているのは親として当然の不安がたくさん載っていると思うので、そこをどう解消するのか。そこを説明することができれば、親御さんも子どもたちも納得して統合につながるのかなと思います。

○会長

賀茂幼稚園の声を拾っていただいたんですね。ありがとうございます。何人ぐらいですか。

OG 委員

10人程度です。

○会長

意見も三つに整理していただきましたが、それらを踏まえるとこの素案についてはいかがでしたか。

OG 委員

私はここがちゃんと説明できたりとか、親御さんたちが納得するので、今の素案はいいなと思っています。さっきの区域の分け方ですが、正直私も「北条だけずるい」って思っていたんですが、視察に行ったり、いろいろと考えていく中で、やはりいいものをつくるっていうことで、そういうもので逆に解消していくのかなと思ったりしたもので、私は素案に対しては賛成なのですが、小学校は小規模でまだいいのかなと思ったりはしています。

○会長

それはそうですね。この後、またその意見交換もしたいと思います。

OH 委員

ちょっと話が戻りますが、先日視察に行かせていただきまして、素晴らしい校舎あるいは教育方針について、よく分かりましたが、私はあまりその方向で視察に行ったつもりではなかったのです。どういう形で合併になったのかというその辺の苦労話が聞きたかったのです。

学校がいろいろと荒れていたということで答弁がありましたが、学校の中に地域のコミュニ

ティや図書館を入れるとか、そういうことは当然これから考えるべきことではないかと私は思います。

このアンケートにしても事前に説明を加えてアンケートを取っていたら、また、違う答えも出てきたのではないかなと思います。私は教育者でもないし、保護者でもありませんので、ちょっと距離を空けて、この問題を捉えています、考え方がはっきりしていないんですけども、当初は2校案でいいかなと。やっぱり考えたら、もう1校でいいのかなと。また、この資料見ていたら、2校がいいのかなと今、迷っております。ただ、組合せについては一つの考える余地があるのかなというぐらいなところですよ。

まとまりの例では、いろいろと当然出てくると思います。その辺を今のここに出ている資料の正誤表でいくのか。いろんな考慮の仕方はあると思いますが、ここに出ている資料を見る中では、説得力のある資料になってきていると思います。ただ、中学校の組合せで、これがどうかなのというのは、まだ私なりに決まらないというのが本音でございます。

○会長

素案の方に説得力が出てきたけれども、それが一番いいのかどうかという、組合せはほかにも考えられるんじゃないかということですかね。そのどの辺が悩まれるところでしょうか、組合せについては。

○H 委員

どれがいいかな、これがいいかなと決めていたら、なかなか決まらないと思います。

だから、場所で行くか、地形で行くかですが、全て送迎バスを調達するというので、このように聞かされたら、親の方は、納得というよりも承知したということになるのではないかなと思います。

教育の方は、もう先生方が頑張っていたら、立派な教育ができるのではないかな。建物はお金をちゃんと出していただいたら、いい物ができると思います。私なりに言わせるとすれば、北条と賀茂と一緒に統合になったらどうなるかなといったところです。

○会長

それはこれまでにない統合パターンですね。

○G 委員

賀茂の北条と一緒にしたらいいのではという意見が出ましたが、あるお母さんは、少人数の賀茂から人数の多い北条へ行くことが心配で、「北条と賀茂と一緒にしないでほしい」と強く言われていたことを思い出しました。

○I 委員

私は、率直に言えば素案に賛成です。私の娘は今、小学校5年生ですので、令和6年に中学校へ入学になります。まさにその令和8年に当たるので、C委員が言われたように制服の問

題もあります。事前に統合するっていう形が決まっていれば、制服であっても最初はばらばらになるとは思いますが、統合したときに同じ制服を着てみんなが入ったら、一体化するのではないかという思いがあります。それと、「この分け方については数合わせ」という意見がありましたが、私は数合わせが大切であると思う理由は、今の日本の教育の中で教員の数は、生徒の数によって決まってしまうという現実があるからで、自分たちの子どもを見たときに、今実際、中学校でも先生が足りなくて、美術の先生がいなくて、よそから来て、美術の授業が全く受けられないという現状があります。子どもの教育を考えた上では、数を合わせていくっていうのは、本当に基本的には大事だと思います。

地形の問題については、私も初め地形の分け方を見たときには、田舎部と都市部という形ですごく何かこう差別的な思いをしました。何度も委員会に参加して、その理由というか、そういったことを見た上で、この分け方というのは致し方ないなという部分もあるのと、新しい学校ができて、北条がそのままって、お互いに羨ましいと思うことや、また、嫌やと思うこともあると思います。北条は分かれなくて、また、魅力をつくれればいいと思いますし、新しくなった学校は、D委員が言われたように本当に全国から見ても、こんなすばらしい学校っていう形の学校につくっていけば、私はもう前向きに考える意味では、素案に賛成になります。

少し長くなりますが、視察に行ったときに私がいろいろ質問したり、向こうの学校で感じたことは、本当に地域が関わっているということで、子どもたちが本当に地域の方々と交流している姿が、ちょうど休み時間でしたが、本当に先生とは違う大人の目で子どもたちを見守っている地域とのつながりというのが、大切だなと感じました。

ただ、この統合に関しては地域がバラバラなので、これで同じようなことができるかっていうのは、これはちょっとまだ疑問だなという部分があります。あと、特別支援についても、そちらの学校は大体4クラスですけども、「支援級に今、何人いるんですか」と質問したときに、生徒さんは8人ということで、先生の基準が1対8なので、そんな多い中でちゃんとできるのかなって思ったときに、いろいろ少人数でも20人、10人、1人でも入れるっていう個別の教室が造ってあり、子どもたちがそのように順応できることと、先生がたくさんいらっしゃるということで、そういったいろんな配慮の要る子どもたちも、本当に温かく見てもらえるという部分で、最初は統合して1対8という人数に私は抵抗がありましたが、そういった形で先生の数がいれば、そのように支援ができるんだということを視察で感じました。

今日の報告を見たときに、ちょっと1点質問があるんですけども、前回行かせていただいた視察先は統合っていう形ではなかったもので、そういった地域、いろんな地域から子どもたちが集まるっていうケースではなかったと思いますが、今回こうやって広い地域から子どもが集まるということで、バスを運行しないといけない現実があります。全国を見ればどこかそういった統合によってバスを利用しているという視察先というか、モデル地域があるのであれば、そういったところの見学に行くことはできますか。親として、バスの料金が無料というのはありがたいですが、教育委員会から具体的にそういった視察は予定されていますか。

○会長

バス通学の先行事例のようなところへ視察の予定は考えておられますか。

○事務局（学校教育課）

送迎バスの件についてご提案いただきましてありがとうございます。視察について委員の皆さんに参加いただくのは、なかなか現実的には難しい部分があるようであれば、資料をご用意することはできると思います。現在、そのリサーチもしており、今、検討委員会の中で、具体的に検討するかどうかも踏まえて、今後、議論は必要だと思っています。今回の事務局の説明も、あくまで再編を考えた上で、こういったことが考えられるであろうと、近隣の県外も含めた市町の情報を得ながらやっております。北播磨管内でも実際にスクールバスを運行してというところもありまして、情報を得ているところです。そういった資料を足していけたらと思います。

○会長

実は2時間が迫っております、もう1議案あります。これも大事なことである程度、方向づけて、来月以降、本答申の方針が決まっていますので、まだご意見いただいていない方で、統合案を素案の形でいくことについて、何か意見のある方、お願いします。

○A委員

私も地理的に言うと、B委員の南北案が正しいって思っていました。ただ、加西市のこれからの中学生の人数の編成を考えると、将来的に必ず1校になるときがやってくることを考えると、今は人数できちんと合わせて、将来1校ということの過程と考えたときに、この道进行することはできないのかなと。南北案になったときに、将来に人口の偏りが出てくるということがあるとすれば、今のデータでは10年後も同じぐらいの人数になるということが分かっているのであれば、いびつな形になるけれども、将来こうなることを見越して、一旦はこの形を受け入れて現状、素案でいったらどうだろうかと私は考えます。

○J委員

先ほどC委員からの話から、学校の方で考えてくださっていることは、本当に素晴らしいと思います。そして、私は今、素案に賛成です、

皆さん方は10年、20年先をおっしゃいますけども、このままの少子化が続く年数は今のところ60年先まで続くという、そういう理解なども出てきております、現実的に。もしこの数字を変えようとするならば、外国の方たちにたくさん来ていただいて人口を増やしていただく以外は、今のところ解決法はないそうです。それが1点。

それから、先ほど特別支援の教室も、この前の視察先で見せていただきました。加西市では総合教育センターのふれあいホームで関わっていただいています。私にはそれが離れているの、がいいのか、あのように同じ校舎の中で、相談員の方がいらっしゃるのがいいのか。それは子

どもたち1人1人の状態によって変わってくるものだと思います。そういうものが学校にできるのであれば選択できる、それだけでも素晴らしいことになると思います。

バスルートですが、私はしばらくして、学年が上がりましたら、子どもたちは自転車で行く子が増えてくるのではないかと思います。そうすると加西市の道路事情がこのままでいいのかということを考えていかないと。多分バスにばかり乗らないようになってくるかだと思います。自由な方を選ぶのではないかと思います。

この前の視察先では、地域の声とか地域の協力とかというのがすごく大きかったと思います。

でも、加西市ではどうなのか。本当に統合校を保護者の方たちは望んでいるのか。どういう状態で望んでいるのか。「北条は一つでいいな」といっていても、北条東と北条、それから、北条東の人たちも過去の北条東ではなく、今はもう地域的にもまた場所が違います、番地も。考え方がもう変わってきていると思います。果たして、「北条一つでいい」と思われているのかどうか。新しい中学校の方へ行きたいと思っておられる方もいると思います。

E委員が言われたように、子どもたちが本当はどうなのか。その辺を考えられるのと、それから、加西市の財政、今後、数年後に起きてくる、それとバランスを考えていかないといけない本当に大変な問題だと思いつつ、一応、素案の①番に賛成ということでお願いいたします。

○会長

不登校への対応とバス、自由な自転車を希望する生徒も出てくると。そこでまた自転車道の整備とかいろいろな配慮をいただきました。でも、基本、素案には賛成いただいたということで。いかがですかね。それ以外の委員の方で、積極的な反対はないですか。

○K委員

今朝の会議で教育長から公民館のあるところに行かれたということで、北部公民館を想定しているのかと思っていました。財政的なポジションで言いますと、この通学バスの案というのは、この資料で初めて知りました。J委員が言われたように市内のよほど北か南に造らない限りでなければ、バスが要るのかなという思いは持っています。それは北条高校を見ても、市内全域から自転車でやってきているのもあるし、恐らくバスを待っているよりも自分で行く方が、利便性が高いと思います。

個人的には素案についてはいかがなものかなと思っており、F委員が言われたように、単なる生徒数の推定値だけではなく、今であれば、加西中校区であれば中野地域が市街化区域に編入されて、住宅が建てられるようになっていきます。また、市内全域で特別区域の見直しもあります。泉中校区においても工業団地が整備開発されてくる中で、市街化区域も一定できてくるであろうということも考えると、泉中校区においても、加西中校区においても、人口が増える可能性はかなりあるのではないかと。それも喫緊の間であれば一定、善防中校区で旧小学校跡を開発したときに29戸増えましたが、それによって善防中、下里小学校区の児童生徒が増えたように一定そういう効果があることも含めて、将来的な要因が分かっている範囲は、考えた方がいいのではないかなと思います。

A委員の言うように将来的にはもう1校になるのであれば、財政的な面から言うと、もう最初から1校でいいものを造る方がいいと思います。2校ということであれば、最終は多数決になろうと思うので、これ以上は言いませんが、僕はもう少し考え方がのではないかなと思うので、一言だけ言っておきます。

○J委員

今、いろいろな意見を聞いて、「皆さんすごいな、いろいろと意見をお持ちだな」とか、視察に行かれた方の意見を聞いて「なるほど、そんなすばらしいこともできるのか」と思って聞かせていただいていたいました。

今年度、北条東こども園が民営化になって、そこで働いていた職員は公立4園のこども園にそれぞれ配置換えになりました。職員が増えて、すごく大きなメリットがあります。

例えば、個別の支援を要するお子さんへの丁寧な関わりも、1対1で関わるができる。今までなら、2対1とか、3対1で関わっていたお子さんに対しても、職員が手厚い関わりができるので、職員が本当にその子の特性を捉えて丁寧に、ゆったりとした環境をつくって、その中で関わるができる。また、子どもも登園することを喜んでいるし、保護者も安心されている。

これから新しい学校を造るに当たってなんですけれども、部屋もみんな同じ大きさの教室じゃなくて、大きい授業をする教室もあれば、一人が入れるような小さな個室のスペースがあったりとか、何人か入れるようなグループで活動できるようなスペースを設けたりとか、これからそういう設計は、自由自在にできるのが、新しい学校をつくる大きなメリットだと思います。

それと、地域と一緒にってというところもすごく魅力だと思いました。私はその話を聞いたときに、ぜんぼうキッズとか、ほくぶキッズの小さな子どもたちが、その中学校に併設するかどうかわからないですが、そういうところに集えるスペースができれば、中学生も休み時間に小さい子どもたちに関わりあって、そこで過ごす生徒も出てくるかもしれない。

そこに居場所を求めて、学校へ行っても、そこに行っても自分に心地良い場所で過ごすこともできる子どももいるのかもしれないと思う。そんな子どもが集うような場所も近くに併設できればいいと思いました。

それには理由があって、昔トライやる・ウィークがあったときに毎年中学校2年生が1週間来るのですが、本当に学校に行きにくい子どもたちも、小さい子どもを相手にすると本当に学校で見られないようないい表情をしているとか、ちょっと学校では生意気な態度を取る、多感な時期の子どもであっても、小さい子が相手だったら笑っているとか、本当に体を使って一生懸命に小さい子どもに関わってくれています。担任や学年の先生からは、「小さな子どもってそんなに元気にする」というか、「中学生が持つ、また違った一面を引き出せる、そんな役割もある」ということを思うと、キッズが集うようなスペースがあってもいいと思いました。

バスの件ですが、私は以前にもバス酔いがひどいことを言わせていただきました。先日久し

ぶりに自分が通った高校まで、車で通ることがありました。こんな遠いところまで自転車に来ていたのかと、友達と「すぐ帰れば40分か45分で帰るのにわざわざ遠回りして」という話もしていました。初めはバスを利用する子どももいると思うけれども、そのうち、だんだんと歩道も、自転車が通れるぐらい広がってきつつあります。そういうところをゆっくり自分のペースで、自転車で通う子どもがほとんどになってくるのかではないかと思いました。

素案に対しては、やはり市が考えているようにして向かわないとなかなか、いろんな意見もありますが、2校案ということで、すてきな中学校ができるといいなと精いっぱい応援していきたいと思っています。

○会長

分かりました。キッズと中学校のとの交流のようなことも、新しい視点としてね、いただきました。

○OF 委員

先ほど新しい学校について地域とかぜんぼうキッズとか、そういう地域の交流がすごく大切だなと思っていて、けども、今、素案の内容を見ると、地域がなかなか一つのコミュニティの場所をつくるのは難しいのではと思います。子どもたちが一番やっぱり困っているのは、PTA のときも参加しましたが、部活動の在り方で地域に移行していかないといけない。地域の人にボランティア、もしくはそういうプロや指導者の方に部活動を依存していかないといけない。

実際にテレビを見ておまして、平日は学校の先生に見ていただいているけど、土曜日、日曜日はそのプロの方が指導されていると。全く練習内容も違うし、月曜日になって「この大会で優勝したよ」みたいな、学校の先生にとってみたら土日は見に行けないというジレンマになっていて、実際にその指導者を育成する、もしくはそういう人をお願いするって、私は難しいと思っています。前にも部活動のあり方のときに提言させていただきましたが、元学校の先生に「今どうされています」とたずねると、「家にずっとおられます」と言われていました。

これから人生100年時代になりますから、そういうコミュニティの場所に先生がいて、放課後、先生に数学や国語の指導をいただく、もしくは部活動に参加していただく。

家でおられるよりも、地域の方のサポートをどんどんしていただいて、「わしがバスの運転をするわ」というようになっていただいていると思いますので、そういうところで連携を取っていくことも、また、視点において考えていただければと思います。

○会長

素案についてはいかがでしょうか。

○OF 委員

こんなこともやってほしいなど。

○会長

まだまだ、地域で活躍いただける方がおられるのではないかというお話です。

○OG 委員

フリースクールを運営している側から言わせてもらおうと、河原先生が言われていたように、自分より年下の子がいると、すごく積極的に話ができるとか、すごくいい笑顔で大人との関わりができる様子が見られるのと、人生の先輩ではないですが、そういう方たちともいろんな交流ができる子どもがいっぱいいます。同世代とは合わないという子どもも来ているので、その辺は地域の高齢者の方から、小さな子どもたちまで触れ合えるような中学校になればよいと思います。

○OL 委員

私も、基本は素案に賛成しますが、もう少し南北案とか、東西案でなく、素案というものをプラスアルファで説明ができた方がいいと感じているところです。

○OM 委員

私も素案には賛成です。先ほどからバスの通学の話が出ていますが、自分は西在田出身で中学校へ通うのも 20 分、30 分ぐらいかかる距離なので、炎天下とか、すごく寒い時期とか、もしバスとかが利用できるなら、自分の子どもは多分利用するんだろうとみんな思っています。今の時代、高齢者ドライバーの事故とか、あと大型トラックとかもよく走っていることから、もし自転車で通うことになれば、整備面も十分に考慮して考えていただけたらと思います。

○会長

あと一度、N 委員にも今日の進行で、これまでの議論を踏まえて、いかがでしょうか。

○ON 委員

皆さんの意見をお伺いして、私も基本的には素案を進めていただければいいかなと思っています。B 委員が気にされていた地域的なこと、地理的なことをどうカバーしていくかというのが、答申をまとめるまでに盛り込めた方がいいと思いますので、この後また、そういう議論ができる時間とかが別途あればいいと思いました。

○会長

B 委員いかがでしょうか。

○OB 委員

今、検討委員会で皆さんのご意見を聞いていますと、素案に賛成の方のほうが多いなという感じです。もしかしたら素案でそのままいくのかもしれませんが、その場合に、私はそこで考えてほしいことですが、この加西市の令和3年ですけど、教育の重点で「郷土を愛し豊かに未

来を拓く人づくり、人生 100 年時代を生きる」とありますけれど、こういう大きな校区、130 平方キロもあるような校区をつくってしまった場合に、ふるさと教育っていうものをどうやっていっていかってということを考えに入れていただきたいと思います。

三重県松阪市は非常に古い商業の発展した町です。特に本居宣長の出身地として有名です。本居宣長に関してはいろんなものが市内にあります。我々が見にいきました鎌田中学校でも本居宣長のコーナーがあり、あの学校に通えば本居宣長が生徒の心の中にも入ってくるように工夫してありました。日本が生み出した最高の知性の一人ですから、そのようになるのですが、それぞれのところで生まれた、ふるさと意識というのは、都会で生まれた人であろうが地方であろうが、それは持つべきだと思います。

都会は都会にふるさとがあると思います。人のつながりとか、私はいろんなものがあると思います。そういうものが心の中にあるということは、これから世界中に出ていってどこかよその国に住もうが、どこに住もうが、そういうものがあるということが大事だと思います。

どこの誰でもない私というのではやっていけないのではないかと思います。私はこういうものだというものがあって、自分の生まれたところはこんなところで、私たちの町はこんな町でということ、プライドを持って人に説明できる。そういうものがふるさと教育の一つだと思います。そういうものが心にないと、ただ新しい知識を持っている、これができるっていうと、これは言ったら部材です。人の部材です。一人の一個の人間として、ふるさと教育というのは、私はどんな地域であっても大事なものじゃないかと思っています。

私たち昭和の人間は、高度経済成長時代の、考え方の一つの悪弊が都会中心主義だと思っています。何でも都会中心主義で考えます。こういうところの話でも都会を中心に、都会のまねをすとか、都会がいいとかいう都会中心主義では、いつまでたっても地方の再生っていうのは絶対できないと思います。幾ら地方再生の論を言ってみても、考え方の基が都会中心主義ですから、これは脱しないといけないと思いますので、地域独自の歴史とかそういうものに向けて、そういうものが心の中にあればこそ、今度、大きな社会に出ていって、競争の社会もあるでしょうし、いろんな人の中にもまれることもあると思いますが、そういうところで初めて自分の足で立っていける人間ができるのではないかと思います。

ただ、知識だけ教えて、そして、たくさんの人のところに放り込んでもまれたら強くなってくれる。決して私はそんなものではないと思います。そういうものを身につける時期、15 歳までの多感な思春期の前期あたりにそういうものを心の中にしっかり持って、それから、加西で生まれた子は加西の関係のあった子は、どこで暮らしてもいいわけですけど、まず、教育委員会の「郷土を愛し、豊かに未来を拓く」というところがありましたら、どんな形の中学校になろうと、まずふるさと教育をどうするか。人間の心の中にふるさとをどうつくっていくか。

そして、都会や外国に出て働く子ばかりじゃないです。もう一つの視点としては、この地域で、この地元で生きていく、そういう子どもたちもたくさんいると思います。そういう子どもたちが夢を持って、この地元で生きていける。人生を生きていく意味を持てるような教育、そ

れが「ふるさと教育」ではないかと思しますので、そういうところの視点は抜かさずに考えていただきたいと思ひます。

○民輪教育長

時間が押しておりますが、B委員に一言だけ。100%賛成でございます。そのためにやっぱり小学校できちっとしたね、人間力を高めることをしてもらおうと思ひて、一生懸命努力しながら、小学校を何とか置いていきたいと思ひております。

もう一つはSTEAM教育です。要するに知識だけを教えるのではなくて、自分の頭で考えて自分で問題をきちっとつかんで、それを解決しようとする子どもたち、そういう人づくりをめざしたいというのが根底にあります。中学校は教育の面から言ひて、心ならずも二つにせざるを得ませんが、小学校はきちっと頑張れるだけ頑張りたいと思ひておりますので、今、ご意見頂いたことに賛成でございます。

○会長

では、もう時間のこともありますが、多くの方から、素案について基本、この方向でやるという部分は賛同いただきました。ただ、課題といひますか、もっと説明を加えてほしいこととか、学校と地域の関わりについては、今後さらに検討していければと思ひます。そういう形で、次の答申を作成していただければと思ひますが、ご異議ございませんでしょうか。

(なし)

長らくすみませんでした。ありがとうございます。

それでは(3)の小学校の複式学級への対応について、これまでも少し意見が出たものですが、今回、新たに全体的に意見をまとめていただきました。事務局から説明お願いします。

(3)小学校の複式学級への対応について

○事務局（教育総務課）

小学校の複式学級への対応について、小学校はオンライン遠隔同時授業や合同授業等による小規模校の課題の解消、緩和を図るということで、11校存続としております。

ただ、アンケートにおきましては69頁、保護者では25.8%の方が「素案の再検討が必要」ということで、「子どもの教育効果に関すること」で多く意見をいただいております。

それから、地域代表の方も、保護者の方よりも多かったのですが、「素案の再検討が必要」という意見が91頁。保護者の方が25%に比べて地域の方は29%ということで、地域の方のほうが多くありました。小学校の教職員は113頁、「素案の再検討が必要」が47.2%となっております。

学校規模の縮小は教職員のアンケートからも、少ない人数で学年が持ち上がると児童間のポジションが決まり、新しいことに挑戦しにくい、あるいはより多くの考えに触れる機会が減るといった意見も示されています。特に問題としておりますのは、複式学級になると指導体制上

の課題克服が困難な局面が出てくるので、子どもや教師にとっても負担が大きくなることが予想されています。

素案にも「保護者や住民の方が小学校の統合を望む場合は、統合について協議を始める」としておきまして、そのプロセスについて具体的にイメージしておく必要があるのではなかろうかと、今回アンケートを取った後に事務局で考えているところです。これらの教育上の観点から複式学級の発生を一つのガイドラインとして位置づけて、実際に複式学級が発生してからでは対応が間に合わないので、複式学級が見込まれる2年前から、仮称ですが、地域協議会というものを立ち上げたいと考えております。この地域協議会で、保護者や地域住民の方に対して問題提起を行った上で、今後の方針、対策、具体的な計画などについて協議を始めるとしてまいります。地域で学校を考えていくということは、もちろんこの地域協議会を待つまでもない話ではありますが、この複式学級への対応ということについてはより具体的に考えていきたいということで今回、提案しております。

協議会の設置は、複式が始まる2年前に小学校に設置することとしています。令和7年度の見込みでは複式が見込まれる学校があり、この場合、令和5年度から設置を進めたいと考えます。統合や統廃合に限らず、複式学級への対応や「学園構想」の進め方等、総合的な学校運営の問題について、地域とともに考えていくことが何より必要と考えております。

地域協議会の構成員は、保護者の方々、地域代表の方々、それから、コミュニティ・スクールをこれから各小学校で立ち上げていきますので、これらの構成員の方々、それから小学校教職員、それから教育委員会の事務局が入ることを想定しています。協議会の進行は、事務局で運営していこうと今考えているところです。複式学級になった場合の対応について、今回、答申の中にも盛り込んでいきたいと、今回ご提案しました。

○会長

具体的に複式が見込まれるのは令和7年度より西在田小学校ですね。その後、宇仁小は令和9年度ですか。

○事務局（教育総務課）

令和8年です。

○会長

直近では、西在田小学校区で複式学級が発生する見込みがあることも踏まえて、この学園構想を工夫、生かしながら、対応を考えていくということです。この提案について何か質問や意見はありますでしょうか。

○OE委員

実際、複式学校っていうのはどういうメリット、デメリットがありますか。大枠で説明をしてください。お願いいたします。

○事務局（学校教育課）

複式学級といいますのは、国が定めている学級の定員があります。その中でその定員に満たなければ、1学年で1学級は形成できない。つまり1年生と2年生とか、2年生と3年生で1つの学級にしなければ。その場合は担任が1名であるという制度です。ただ、国の制度と兵庫県教育委員会の制度は若干違っており、兵庫県教育委員会の方は、小学校1年生が入る場合、少人数であっても、直ちに複式学級にせず一定の人数幅を持たせています。

西在田小学校では令和8年度には2年生と3年生で複式学級が出現することが見込まれています。小学校1年生は8名以上で複式学級にならないという基準があるので、そのような形になっています。

口頭での説明で分かりにくいかもしれませんが、実際に2年生、3年生が複式学級になりますと、算数、国語、理科、社会、生活科といった教科を1人の先生が、2年生と3年生の子どもを一つの教室で、一人で見ないといけなくなるということになります。

複式学級のメリットは、2年生、3年生の子どもたちが一つの教室におりますので、異年齢の2年生と3年生がいろいろと勉強を教えたりとか、生活上のルールを教えたりということが考えられます。

一方、デメリットとなると、一人の先生が授業をします。以前の視察先の学校の教室の様子を見ていますと、背面の黒板と前面の黒板を使って、前面の黒板で2年生の子どもを担当の先生が授業をしています。そして、説明を受けて作業している間に、3年生の子どもに背面の黒板を使って、授業をするということになって、一つの教室で同時に同じ内容はできませんので、前後に分かれたりするようなことをします。図工であるとかそういった実技教科になりますと、異年齢で同じ内容のものを1人の先生が教えることもあります。イメージしていただけたでしょうか。

○E 委員

分かりました。

○M 委員

このアンケートの結果を見ると、小学校を存続してほしいと思う人が多いようですが、実際に複式学級に係る世帯の親の意見はどれくらいあるのかなと思います。単学級と複式学級の意見をまんべんなく抽出したアンケートになっているので、複式学級に当たる親はどのように思っているのかをアンケートとか、意見を聞きたいと思います。

○会長

そのあたり、分析も含めて区別して出せていますか。事務局はその説明をお願いします。

○事務局（教育総務課）

将来、複式学級にかかる、その心配がある世帯というのは、おそらくあるかと思いますが、今、複式学級の世帯というのは現状としてはありません。ただ、そうなるときの方の意見をお聞きすることは非常に大事なことです。今回の提案した協議会の中で、複式になった場合の保護者の皆さんはどういう形を望まれるのか、どのように課題を解消していこうとされるのか、そこはしっかりご意見を伺っていきたいと考えています。

OM 委員

自分はちょうど真ん中の子と1番下の子どもがこの複式学級に当たります。周りの意見を聞いていると「隣の小学校とくっつけてくれたらいいのに」とか、そんな意見を聞いた。実際のところ、みんながどんなことを思っているのか、G 委員がアンケートを取られたように、こども園でもそういうのを試してみようと思っています。

○会長

皆さんの声を拾うためにはいいですね。地域協議会を立ち上げる前の段階で、そういう声を拾っていくということは、いいことだと思います。

○A 委員

今、複式授業について、事務局からも説明がありましたが、私自身は複式の授業全てで、デメリットが多いとは思っていません。確かに教師にとって教えることがすごく難しい環境になりますが、工夫さえすれば、普段子どもたちに育てられないような側面が育つだろうと。

例えば、ずらしの授業で、導入、展開、整理とあって、授業というのは大きくそれで分かれます。3年生と4年生が同時に授業を行う場合には、その段階をずらして、こちら側で導入をやっているときには、前の段階の復習をやって、その次、導入が終わったら、こちら側の4年生に導入を行うというように、ずらしていく授業を行います。

その間、子どもたちが自分たちだけで考えるような時間が生まれてきます。そういうときに自立性あるいは自主性が育つと言われていいますので、自分たちで授業を行えるようなそういう環境が整います。

ただし、それを行うときに何が必要かということ、教師がそれをできるだけの指導力が必要になってくる。ですから、2年前に協議会を立ち上げて、学校の在り方を考えていく一方で、どのようにして複式の授業を行っていくかっていうのを学校自身が、教職員の中で研修を積んで対応できるような体制をつくっていくことも、同時に必要だろうと考えています。

○会長

ありがとうございます。ほかに何かありますでしょうか。N 委員によろしいですか。この複式学級への対応について何かご意見ありますでしょうか。

○N 委員

先ほどの中学校のときのB委員のコメントとも関連しますが、学校規模が小さくなっていく

ときに、そのときに初めてこれからの学校をどうしようかと考え始めるのではなくて、普段から、子どもたちどのよう関わりをしていくかということを学校も含めて話せる関係を充実しておく、数のことも含めて考えられるようになっていくのではと思っていました。

○会長

貴重なご意見かと思えます。では、他によろしいですか。

(なし)

特にないようでしたら、この件については、この案の方向で検討を進めるということにしたいと思えます。では、これで協議事項は終わってよろしいですか。

4. その他

○会長

会議次第の4のその他については事務局に戻します。

○事務局（教育総務課）

その他については、特にございません。

閉会

○教育部長

3時間弱の長時間にわたりまして、いろいろとご意見賜りましてありがとうございます。

今日の6月の委員会は、先月にも申し上げましたとおり一つの節目の会になったと思っております。検討委員会を始めて以降の皆さんのご意見とアンケート結果、それらを踏まえて、当初示した案は、見直す余地や可能性を含んだものということでお示しをしました。それを事務局で見直し、複数回、協議をした上でお示しをしたものが、今日の資料です。

全員といたしますか、アンケートをお答えして下さった皆さんも含めて、全員がもろ手を挙げるものにならない答えを示していかなくてはならないという苦しさはありましたが、何とかこれなら、理解をお願いできないかというものを仕上げ、協議をしてみました。

それを今回皆様からご意見頂いたわけなんです、本当に良かったと思っております。多くの皆さん、この場の皆さんから本当に様々なご意見を賜りました。これらを踏まえながら、今後の答申案につなげていきたいと考えております。

その答申案には、方向性プラス付帯意見というものを加えていきながら、配慮に欠けることなく、方向性を示したものに対して十分な補完ができるように仕上げたいと思っております。

9月までを予定しておりますが、よろしくお願ひしたいと思います。本日は本当に長時間になりましたが、いろいろとご意見賜りまして、ありがとうございます。